

「災害と自治」

— このままではまちが無くなる！ —

こんな声が住民から聞こえるなど、今、東日本大震災の被災地では、住民の望む暮らしと、進みつつある復興事業に少なからず隔たりが生じている。

一方で、今年で20周年を迎えた阪神淡路大震災の被災地でも「未だ終わらぬ復興」という問題や「震災前より大幅な人口減少」という問題がある。住民の生活が復元しないまま、「記憶」が「歴史」に転換される危惧もある。

「被災後」であれ、「被災前」であれ、「復興」という趣旨であろうと、「予防」という趣旨であろうと、それはあくまで「まちづくり」であり、住民が主体的に進めるべきものである。

すなわち、その行為は自治活動そのものであり、外部の支援を受けるにしても主役たる住民（現在～将来）の意向を反映させなければならない。

しかし、事後対応になると十分な合意が得られず、望まぬ未来が創られる恐れがある。それは、阪神、東日本からの警鐘ではないだろうか。

昨年度のシンポジウムで「事前復興」を考えたことを踏まえ、大きな災害に見舞われても、地域が復興（復元）し、持続できる仕組みをつくるために、事前に取り組むべきことを考える場としたい。

【日時】 2015年 **2月28日** (土) **[入場無料]**
13:00～17:00

【場所】 中土佐町民交流会館 高岡郡中土佐町久礼6584-1
◎ 事前申し込みは不要です。どなたでもご参加ください。

—— タイムスケジュール ——

- 13:00～13:05(5分) 開会行事
13:05～14:25(80分) 基調講演 テーマ「災害と住民自治」
沼田 良さん(東洋大学法学部教授)
14:25～15:00(35分) 報告① テーマ「住民の望む復興とは？」
阿部晃成さん(雄勝町の雄勝地区を考える会 事務局)
15:00～15:35(35分) 報告② テーマ「復興と地域の復元」
宮定 章(認定NPO法人 まち・コミュニケーション代表理事、工学博士)
15:35～15:45(10分) 休憩～設営
15:45～16:55(70分) パネルディスカッション
○パネラー
沼田 良さん、阿部晃成さん、宮定 章さん
山崎正明さん(中土佐町役場防災担当者)
○コーディネーター(調整中)
16:55～17:00(5分) 閉会行事
17:00 終了

沼田 良(ぬまた まこと)さん 東洋大学法学部・同大学院法学研究科教授

1950年生まれ。

中央大学法学部・同大学院から、国立国会図書館・作新学院大学を経て、現職。

専攻は行政学、地方自治論。

論文に、

「大災害時における政治・行政・自治体のあり方－自治基本条例の意義を転換する
(自治総研2011年12月)」

「地域再生への視点－開発型思考からの脱却(法学新報2011年09月)」

「地域再生とまちづくり(作新総合政策研究2010年03月)」など。



阿部 晃成(あべ あきなり)さん 雄勝町の雄勝地区を考える会 事務局

1988年宮城県雄勝町(現石巻市雄勝町)生まれ。

雄勝町で生まれ育ち、東日本大震災時に、一家七人全員で雄勝湾を一晚漂流し九死に一生を得る。

その経験もあり震災後、雄勝町の震災復興まちづくり協議会に参加、

住民が自らの復興を考え行政に提案する目的で雄勝町の雄勝地区を考える会を結成。

しかし、考える会の運営が難航し、「このままではまちが無くなる！」と危機感を覚え、

阪神・淡路大震災の経験を聞くため神戸に行き、宮定さんと出会う。

結局、復興案は変わらず、従前の3割しか住民が戻らない故郷でこれからどう頑張ろうと、どうしてこうなってしまったのかと考える日々を送っている。



宮定 章(みやさだ あきら)さん 認定NPO法人 まち・コミュニケーション代表理事、博士(工学)

1975年兵庫県西宮市生まれ。

大阪大学大学院工学研究科卒業。

阪神・淡路大震災で、8割が焼失する被害を受けた神戸市長田区御蔵地区の

「一人でも多くの人を元のまちに戻そう」と復興まちづくりを支援するまち・コミュニケーションのメンバーに参加し、住民参加のまちづくりのコーディネート(2000年)。

2003年防災功労者内閣総理大臣賞受賞。

2012年には、大規模災害後、従前居住者の地区内再建の難しさを、現場だけでは解決できないと分析し、神戸大学大学院自然科学研究科にて、博士論文として執筆。

2012年2月、地域存続の危機感を抱いた阿部さんと神戸で出会う。

「これまでの知見が活かせないか」と、東日本大震災による津波により甚大な被害を受けた石巻市雄勝町にて、月の20日を滞在し、住民の地域生活を感じ、学びながら、復興事業が完了しても人口が震災前の30%になる地区の持続的な運営をどうすればよいか模索中。

